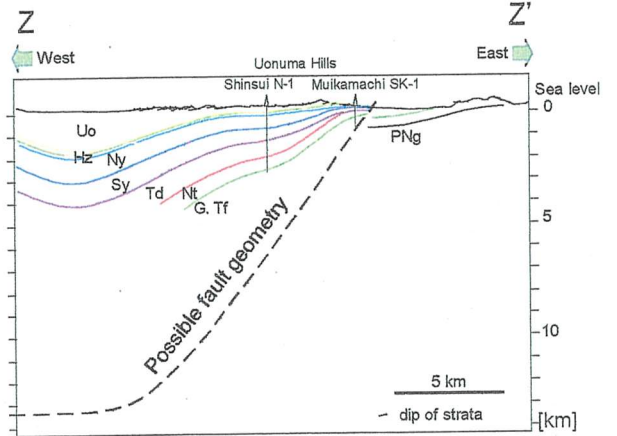
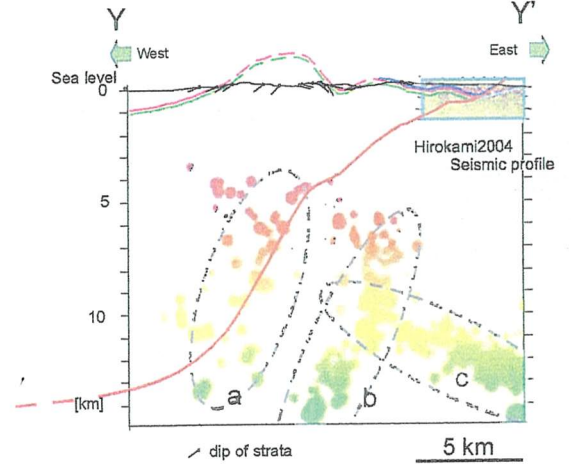
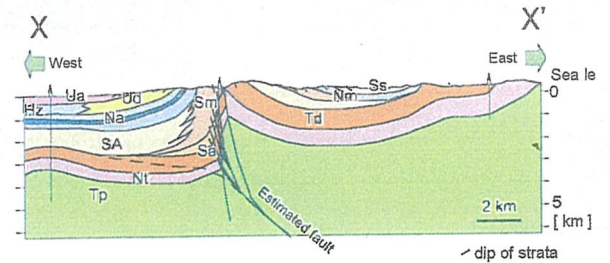
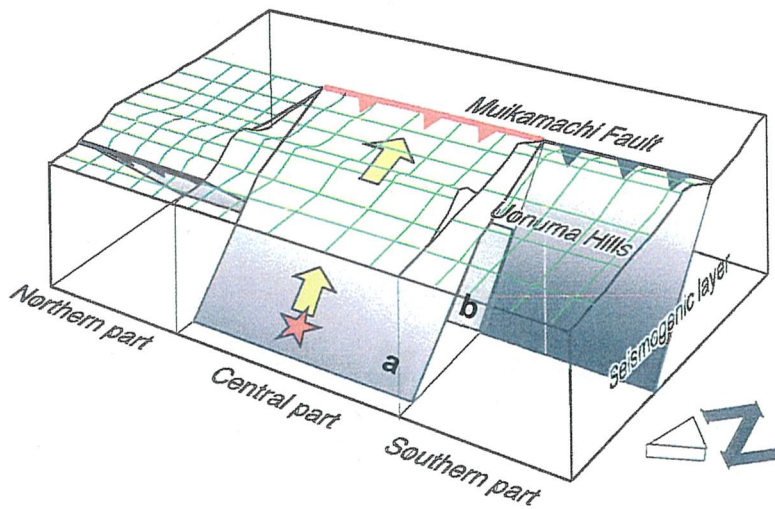


震源域周辺の地質構造と余震分布



地質断面図 (断面線は左上図参照)



震源域周辺の主な震源断層

震源域周辺の魚沼丘陵は、地質構造から走向方向にほぼ3つに分けられる。中越地震の震源域は複背斜構造で、南部は西傾斜の等斜構造が卓越する。この境界部は余震分布の境界ともなる。また北部は西翼が急傾斜の複背斜をなし、東傾斜の逆断層が推定される。六日町断層は、南部・中部魚沼丘陵の東縁を画するが、その断層深部の形状は大きな違いがあり、中部は西側にステップした断層につながる。六日町断層はほぼ連続した地表トレースを有するにもかかわらず、南北で異なる震源断層に連続している可能性が高い。余震分布から判断して、今回の断層は、中央部の断層の破壊によって発生し、北側の断層の一部にも及んだものと推定される。

走向線は地質調査所の5万分の1図幅から作成。地質断面は、上記の他、新潟県(2000)、石油公団の資料による。